

6/28/09 「まかれた種が実る良い土地」 ルカ8:1-8

主イエスは譬えの名人でした。その 目的は聞く者から主体的な応答を引き出すという点にあったのです。ですから主イエスの譬えを聞いた者は聞き流すことができなくなります。無関心のままその場を去ることができなくなります。立ち止まって主イエスと向き合うことを余儀なくされるのです。

今日読んで頂いた聖書の箇所「種をまく人」の譬えにも同じことが言えます。農夫が畑に種まきに行きます。ある種は道端に落ち、人に踏みつけられ、鳥に食われてしまいます。他の種は石地に落ち、枯れてしまいます。もう一つの種は茨の中に落ちてこれまた育つことなく枯れてしまいます。良い土地に蒔かれた種だけがすくすくと育ち100倍の実を結んだというのです。主イエスはこの譬えを以下の言葉で結びます。「聞く耳のある者は聞きなさい。」

この譬えで明らかなことがいくつかあります。農夫は主イエス自身です。種とは神の言葉です。その神の言葉が力を発揮するためには良い土地が必要です。

主イエスは聞く者に直接問いかけているのです。「あなたは道端なのか、それとも石地なのか、それとも茨なのか、それとも良い土地なのか。あなたはそれらのどれになりたいのか。」こう問われた者は、自分自身を凝視せざるを得ません。主イエスの問いに無関心を装うわけにはいかないのです。

この「良い土地」という言葉に象徴される人は具体的に誰だったのでしょうか。彼を慕って常に傍らにいた3人の女性だったのは間違いありません。

マグダラのマリア、ヘロデの家令の妻ヨハンナ、そしてスザンナという名前の女性の3人です。これらの女性達はすべて過去において人生の危機と直面せざるを得なかった人々でした。マグダラのマリアはかつて七つの悪霊に悩まされていました。ヨハンナもスザンナも深い悩みや病に冒されたことがありました。

その彼女達は、主イエスによって癒され、人間らしさを取り戻すことができたのです。「重荷を負っているすべての人よ。来なさい、私のもとに。慰めてあげる、そのあなたを」と語りかける主イエスと出会い、その出会いを梃に本当に生きることを知ったという否定しようのない原体験で結ばれていたのです。癒され、人間らしさを回復した彼女達はその後主イエスの宣教の力強い支援者となります。つまり、100倍の実を結ぶ「良い土地」となったのです。

私たちは主イエスによって良い土地になるように招かれています。福音の証人となるように招かれています。すべての人が、社会的地位や、社会的成功や、能力のあるなしに関係なく神の慈しみの対象であることを、そして民族や人種や文化を異にする人々が神の下においてすべて限りなく貴重で限りなく重い人格的存在であることを、身を以て証するように招かれています。100倍の実を結ぶ良い土地とは神の愛の証人を意味していると言って間違いありません。

主イエスは私たちに神の平和と和解の媒介たれと語りかけておられるのです。神の愛の器として生きよと招き給うのです。100倍の実を結ぶ良い土地へといざなわれるのです。

アシジの聖フランシスコは有名な祈りを残しています。「神よ、私をあなたの平和の器としてお使いください。憎しみのあるところには愛を、罪のあるところには赦しを、疑いのあるところには信仰を、絶望のあるところには希望を、暗闇のあるところには光を、悲しみのあるところには喜びをもたらす者とならせてください。」

私たちもこの祈りを祈ろうではありませんか。主イエスの愛と恵みを人々の前に掲げようではありませんか。主イエスの福音のメッセージを言葉と生き方で示そうではありませんか。100倍の実を結ぶ良い土地とさせ給えと祈ろうではありませんか。そのような祈りは必ず聞き届けられるに違いありません。私たちの願いはかなえられるに違いありません。神はそのように祈る私たちを慈しみ、力づけてくださるに違いありません。